

磐城中等學校同窓會 新年會通報

吾々磐城中等學校同窓會友は、勿來町方面、卒業回数廿九回卒業生數二、四百六十九名にして、う、江名町方面、高木、吉田、正雄、から現會友は三千二百一、名であります。但し昭和四年八月現在、御案内の如く、例會は毎年八月十日午後三時より、母校に於て開催終つて、懇親會を催す事になつて居り、例會に準じて新年會親會を例年一月三日午後七時より平町に於て催す事になつて居りますが、本年は緊縮の聲あり世相險惡にして友情の如き温き眞情が薄らぎつゝあるの傾向が見えます。此の際吾々會友は一堂に會ひ舊情を温め益々共存共榮の社會に善處し行きたるべき見地から、新年會親會を左の如く開催致し、懇親會を思ひますので、萬障御繰り合せ御出席を切望するものであります。時間は一、明以外の會友の汽車自動車の都合もあるべく午後五時開會と決定致しました。會費も不景氣の事であり従來は參圓でしたが、貳圓とし、責任を負ふて御満足し得る程度に力める心算であります。

一、開期 昭和五年一月三十一日 午後五時
一、會場 平町住吉屋本店
一、會費 貳圓也

但し出來得る限り前拂ひの事、御都合により當日御持參も差し支ありませんが、準備の都合ありますから、出欠は明らかに御願ひします。尚減員は困りますが、當日増員は準備に合ひますから、催し半町五丁目電話九番、藤橋元三郎へ、本月二十七日まで御通知を願ひします。何は客員たる唐土校長始め他職員其他母校中關係有志も臨席する事になつて居ります。加ひて同窓會若しくは母校に御希望の件あらば前以つて御知らせをうけ、最善の對策を探りたいと思ひますから、御腹藏なく御指示を希望するものであります。

昭和四年十二月十五日
會 長 諸 橋 守 次
副 會 長 酒 井 清 接 待
常 任 幹 事 關 内 正 一 接 待
同 山 田 盤 磨 庶 務
同 山 野 邊 庄 吉 庶 務
同 松 本 榮 一 會 計
同 小 野 信 一 郎 接 待
同 蛭 田 利 光 會 計
同 阿 部 傳 六 庶 務
同 鈴木 信 雄 庶 務
同 方面幹事 比 佐 榮 一
同 本 町 方面 小 野 保
同 植 田 町 方面 小 野 保

平町田町
高久病院
電話五三一番

山田緑雨小著『記念出版』
磐城人物一面觀
五年一月一日發行「四六版四十頁」

歲末年始賣出し
◎當用日記、ボケツト日記、カレン
ダイ、カルタドランプ
◎新年エハガキ、文字ハガキ
例年の通り豊富に取揃へました
平町四丁目角
マルトモ柴田書店
電話二三四番・九〇五番

歲末特賣賣出し 二十五日五日間
大人メリヤスシャツ 四十五錢
細糸上等メリヤス 七十五錢
毛メリヤス 一圓五十錢
婦人メリヤス 一圓五十錢
本毛婦人襦袢 一圓
極上郡卷 一圓五十錢
短着下三足 五十錢
天津石鹼半打進物用箱入 六十錢
平町四丁目 ツルヤ商店
電話一四〇番

昭和四年を送る感
朝群山府
北市喜多孝
人生は無駄が多くて人のやう
日かたつてゆく今年も今年も

御會葬御禮
X光線科
与田醫院
平 南 町
電話一二九番

酒 錦 酒 助
平町四丁目半鐘通り
永山酒造店
總發賣元
電話二〇七番

平稅務署向通り
味噌 山野邊米店
電話(呼出)七三四番

平町田町大通り
ライト寫眞館
高 田 二 果
電話八四七番

液體空氣會社製
吸入用酸素、酸素吸入器
（酸素含有量 百分中 九九五）
（東京工業試驗所證明）
正體 寒暖計 開内藥局
電話四〇番

年末奉仕週間「廿五日より年内」
あかやが當年の大詰めに大欄さらつて徹底的に桁はづれの御奉公大提供「二百本限り」年内のお買物は是非此の際に!!!

◆特價提供品
●朱子製裏トビ 七圓五〇
●霜降トビ 一三・五〇
●霜降オト 四・八〇
●グランドオト 五・〇〇
●黒羅紗大人マント 二・五〇
●色ラシヤマント 二・五〇
●セル甲斐絹總裏コート 六圓均一
●色セル絹總裏コート 八・五〇
●モテリ外套 壹圓均一
●黒羅紗小供用コート 二・五〇
●黒羅紗小供用コート 二・五〇

平二丁目 あかや洋服店 電話二〇三

長井博士の推獎せる萬病に靈効を有す
別府溫泉より生産せる不思議なる塗布藥
溫泉エキス 小瓶 五十錢
大瓶 一圓也
（一名アンマイラズ）
世界的評判に於ける婦人挿入藥
美 神 丸 定一週分 四〇〇
定二週分 八〇〇
價五週分 一、八〇〇
十週分 三、五〇〇

一日藥價僅かに五錢の自宅療法の妙藥
健康素として男々強壯藥
キナサフラン酒 小瓶 二、二〇〇
大瓶 五、〇〇〇
徳用 五、〇〇〇
旺盛なる賣行は優秀なる効果を立證す
仁丹 溫計
特約 溫計 店 山野邊藥局
平町五丁目角 藥劑士 山野邊東次郎